

病害虫発生予察注意報第3号

病害虫名：果樹共通害虫のナミハダニ

1 発生予想 りんご、なし、ももでナミハダニの発生が多い。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

- (1) 7月下旬のナミハダニの寄生数調査の結果、りんご、なしで寄生数が平年よりかなり多く(図1、2)、また、ももにおいても、ハダニ類の発生が多いほ場がみられた(表1)。
- (2) ナミハダニ等の影響により、りんごでは葉裏の褐変(図3)、なしでは葉焼け症状、ももでは葉の白化などがみられている。
- (3) 気象庁発表の「関東甲信地方1か月予報(平成30年8月9日発表)」によると、気温の高い状態が続き、期間の前半はかなり高い見込みと予想され、今後もナミハダニの活動や増殖に好適な条件が継続するため、今後も発生が増加すると推測される。

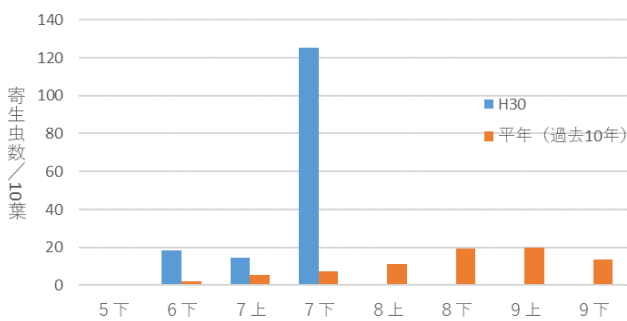


図1 りんご10葉当りナミハダニ寄生数 (16ほ場平均)

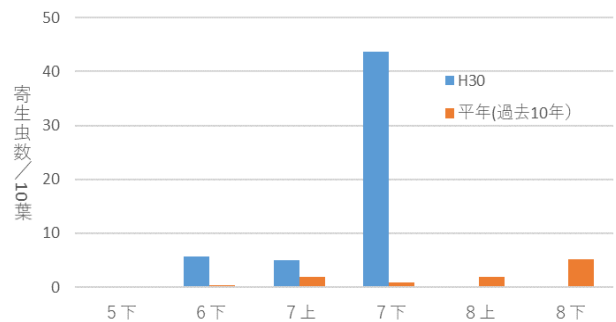


図2 なし10葉当りナミハダニ寄生数 (9ほ場平均)

表1 もものハダニ類の寄生虫数 (7月下旬) 頭/10葉当り

調査地点	佐久市 上平尾	小諸市 三岡	豊丘村 河野	松本市 波田三溝	安曇野市 三郷	長野市 川田	長野市 川中島
寄生虫数	0.4	0	0	34.4	0	38.9	0



図3 ナミハダニによる葉裏の褐変



図4 リンゴの葉に寄生しているナミハダニと卵

4 防除対策と留意点

- (1) 高温の状況下では、ナミハダニの増殖能力が高まり、短期間で多発状態になるので発生状況をよく確認し（図4）、発生が多い場合は登録の範囲内で十分な量の殺ダニ剤を散布する。なお、抵抗性の出現を回避するため、同一薬剤及び同一系統剤は年1回のみを使用とする。
- (2) 殺ダニ剤散布前には、樹冠内部まで薬剤がかかるように不要な徒長枝は切除する。
- (3) ボルドー液等は、殺ダニ剤の効果を低下させるので注意する。
- (4) 殺ダニ剤散布後に除草をするとナミハダニの樹上密度を高める場合があるので、除草時期に注意する
- (5) 農薬の使用にあたっては、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の登録内容を遵守する。

長野県病害虫防除所

中島賢生（所長） 堀 道広（担当）、柳沢和也（担当）

東北信 TEL：026-248-6471 FAX：026-248-6473

中南信 TEL：0263-53-5642 FAX：0263-54-4508

Eメール：bojo@pref.nagano.lg.jp（東北信） bojo-y@pref.nagano.lg.jp（中南信）

<http://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>